

日本昔ばなし絵本

いすんぼうし

はたこうしろう

むかし、おじいさんとおばあさんがおりました。
ある日、ふたりは子どもをさずかりました。
生まれてきたのは、小さな小さな男の子でした。



つぎの朝。^{あさ}

「いってまいります。」

かならず かえってまいりますのでー!

いっすんぼうしは ぽんぽんとはねると、

元気よく 走りだしました。^{げんき}

おばあさんが ぬってくれた

あたらしい 着物をきて、^{きもの}

おわんのかさにはしの つえ、

こしには おじいさんが つくってくれた

はりの かたなを さしています。

かえるも、わかれを おしんで、

げこげこげこと なきました。



おひめさまに 氣にいられた
いっすんぼうしは、
ある日、お寺まいりの
おともを することになりました。
けらいの中には、
「こんな 小さな やつなど、
なんの 役にも たたないのに」
と、かげで わるぐちを
いうものも おりました。





「い、いたたたた！」
おには、したを だしたり、
ひっこめたり。
それでも、いっすんぼうしは
やすまず、とびまわります。

とうとう
がまん できなくなり、
「がはっ！」
やっこのことではおには、
いっすんぼうしをはきだすと、
いちもくさんに
にげていきました。



日本昔ばなし絵本

おむすびころりん

さいとう のぶ



おひるになって、おじいさんは
おべんとうをたべることにしました。
おばあさんがつくってくれた、
おいしい おむすびです。

「よっころしょ」と、おじいさんは、
きりかぶにすわりました。
ところが、おじいさんがつつみをひらいたとたん、
おむすびがひとつ、ころりとおち、
ころころころ……と ころがっていきました。

「うわあああ！」



こんどは、おじいさんが
ふかいふかいあなのなかへ。

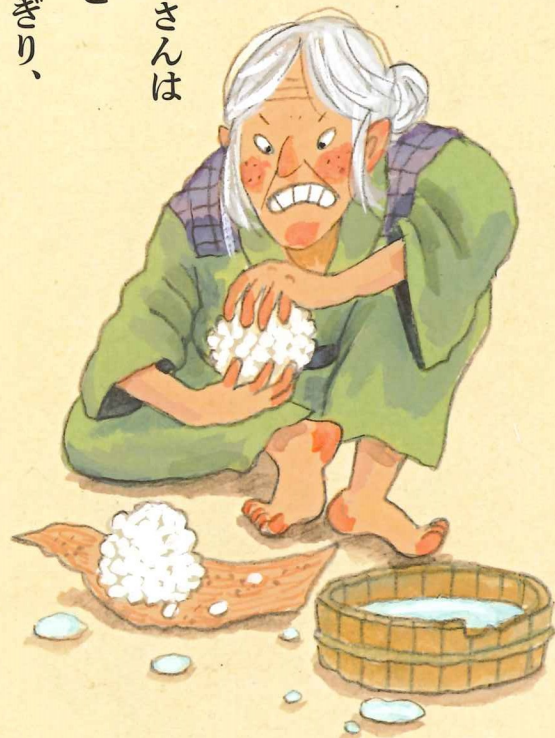
おおばん ころばんが、
ざっくざっく！



ところが、そのようすを、
となりの おじいさんとおばあさんが、
じっとみていました。

となりの おじいさんと おばあさんは、もう うらやましくて たまりません。
「こんどは わしらの ぼんじゃ!」と、よくばりな おじいさん。
「そうじゃ、そうじゃ!」と、いじわるな おばあさん。

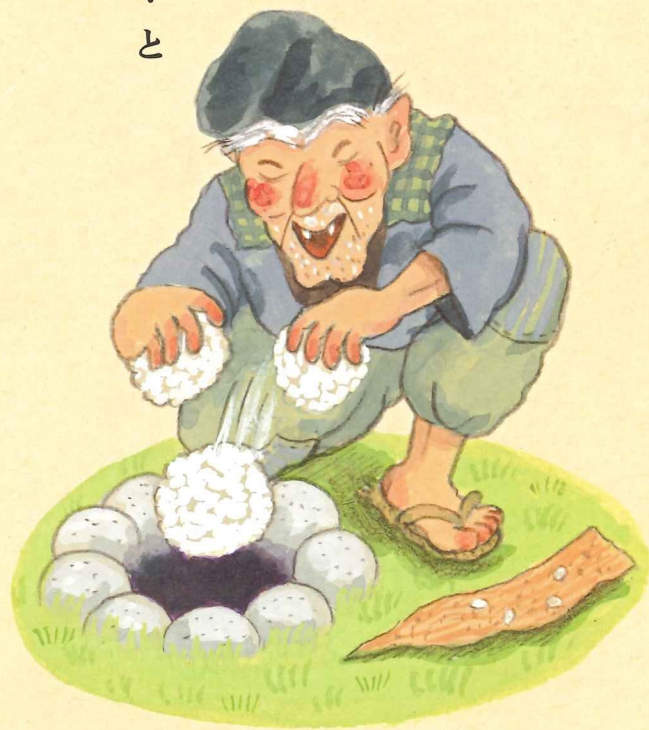
そこで、おばあさんは
ちゃかちゃかと
おむすびを にぎり、



それをもった
おじいさんは
山^{やま}へはしり、



あなを みつけると、
おむすびを 三^{みつ}つ、
いきなり、ぼんぼんぼん! と
ほうりこみました。



そして、ねずみの うたも きかず、
あなの なかへ まっさかさま。



にゃごおおお!!

ねこがきたと、みせかけて、おじいさんが さけぶと、
ねずみたちは いちもくさんに にげだしました。

